

平成30年12月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成30年12月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

来年1月11日（金）～20日（日）の10日間、「ふるさと祭り東京2019」が、東京ドームで開催されます。

今回は、八戸三社大祭の山車が出演します。首都圏で三社大祭の山車の実物を披露するのは、「ふるさと祭り東京2014」以来、5年ぶりです。

期間中は、展示のほか、1月11日（金）～15日（火）の5日間、メインステージに1日2回程度登場し、お囃子と共に祭りの一部を再現いたします。

また、会場には、八戸前沖さばや八戸の地酒を販売するブースもございます。ぜひ、お誘い合わせの上、お出かけください。

■ふるさと祭り東京2019

○開催期間 2019年1月11日（金）～1月20日（日）

○開催時間 1月11日（金）～19日（土）10:00～21:00
20日（日）10:00～18:00

※入場は閉場の30分前まで

○入 場 料 当日券 1,700円（前売り1,500円）

平日限定当日券 1,400円（前売り1,200円）

※11日、15～18日有効

イブニング券 1,300円 ※16:00以降ご利用いただけます

詳しくは、東京ドームシティ公式サイトからご覧ください。

<http://www.tokyo-dome.co.jp/furusato/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

入戸12月号 レポート

平成30年11月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	YSアリーナ八戸 こけら落とし 市が音楽フェスを検討
(2)	八戸市中心街活性化 国が第3期計画認定
(3)	2019年版青森県民手帳 限定の「こぎん刺し」柄 大人気
(4)	「ふるさと祭り東京」に八戸三社大祭の山車参加 5年ぶり首都圏でお披露目
(5)	八戸市新美術館オープン先送り 2021年夏へ
(6)	八戸圏域版DMO 菊と鶴をデザインしたロゴマーク決定
(7)	県が八戸などで「ウォームシェア」～自宅の暖房消して暖かいお店に行こう～
(8)	八戸市と八食センター「地域活性化包括連携協定」を締結

【産業】

記事	概要
(9)	ユートリーに新レストラン「駅前ダイニング櫛(いちい)」オープン
(10)	ユートリー新商品人気コンテスト「Aomori恋恋」(小泉製菓)が1位
(11)	“待望 サバ大漁” 今季一番の4600トン
(12)	青森-台北チャーター便 来夏から定期便に
(13)	「八苦連携」民間に波及 青い森信金と苦小牧信金が交流協定締結へ

【地域】

記事	概要
(14)	蕪嶋神社 工事順調 進捗8割 ～地域の宝 完成迫る～
(15)	大上木材工業(八戸)の「コロシート」映画「日日是好日」に使用
(16)	八高専とタイの中高一貫校 国際競争力強化へ協定
(17)	2017年がん75歳未満死亡率 青森県が14年連続最下位

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	ヒップホップダンス国際大会 沢上りんかさん(八戸市)世界チャンピオンに
(19)	市川海老蔵さん「古典への誘い」八戸公演開催
(20)	ヴァンラーレ八戸 J3参入! 青森県初 新たな挑戦へ
(21)	八戸三社大祭の山車 現行通りエンジン使用

【行政】

記事	概要
(1)	<p>YSアリーナ八戸 こけら落とし 市が音楽フェスを検討</p> <p>2019年秋に供用開始予定の八戸市立屋内スケート場「YSアリーナ八戸」について、市が施設のこけら落としに当たる完成記念イベントで、複数のアーティストが出演する「音楽フェス」の開催を検討していることが分かった。音楽フェスは複数のアーティストが次々と出演し、楽曲を披露していく内容で、完成直後の来年8～9月ごろの開催を想定し、青森県内外から8千人の集客を見込んでいるという。イベントに先立ち式典も行う予定。YSアリーナ八戸は、完成すれば、国際大会の開催が可能な国内3カ所目の屋内スケート場となる。コンサートなどを実施する場合の観客収容能力は県内で最大級。</p>
(2)	<p>八戸市中心街活性化 国が第3期計画認定</p> <p>内閣府は11月9日、八戸市中心街の活性化の指針となる第3期市中心市街地活性化基本計画を認定した。市は当初の予定通り、今年12月から計画をスタートし、2024年3月までの5年4カ月で、市立屋内スケート場建設や新美術館整備など全64事業を展開する。3期計画は「多様な都市機能が集積した活力あるまちづくり」「地域経済の活力向上」「移動しやすい、暮らしやすいまちづくり」を基本方針に据え、各種事業を実施。みろく横丁と交差する「花小路」や、八日町地区複合ビルの整備などにも取り組む。計画認定を受け、小林眞市長は「64事業を着実に実施し、中心市街地、さらには市の活性化に結び付けられるよう、官民一体となって取り組んでいく」とコメントを出した。</p>
(3)	<p>2019年版青森県民手帳 限定の「こぎん刺し」柄 大人気</p> <p>2019年版の青森県民手帳が好評となっている。県内の特産品をイメージした6色に加え、「こぎん刺し」の柄をプリントした限定版も登場。10月下旬に発売し、限定版は千部を用意したが、既に多くの店頭で売り切れる人気ぶり。本体160ページ、別冊80ページのボリュームで、新たに方言やリンゴの品種、主な温泉を紹介するコーナーも設けた。また、八戸市や五戸町、おいらせ町など希望した14市町には市章や町章、ゆるキャラなどをあしらった市町村版も作成した。定価は税込み500円（こぎん刺しバージョンは700円）。東京都内でも渋谷ロフトなどで扱っている。</p>
(4)	<p>「ふるさと祭り東京」に八戸三社大祭の山車参加 5年ぶり首都圏でお披露目</p> <p>八戸市は11月21日、東京ドームで2019年1月11～20日に開催される「ふるさと祭り東京2019」に、八戸三社大祭の山車が参加すると発表した。参加するのは、今年の三社大祭で葛飾北斎などを題材に、敢闘賞を受賞した八戸市職員互助会の山車。装飾をより豪華にアレンジし、題名を「天地万物を画く葛飾北斎と富士の祭神このはなさくやひめ」に改める。三社大祭の山車が首都圏でお披露目されるのは2014年のふるさと祭り以来、5年ぶり。</p>
(5)	<p>八戸市新美術館オープン先送り 2021年夏へ</p> <p>八戸市は11月21日、建設中の市新美術館について、当初2020年度末としていたオープン時期を21年夏ごろに先送りすると明らかにした。開発エリアの一部である八戸警察署跡地の地下に旧庁舎などに使われた基礎くいが残っていることなどが判明し、追加の撤去工事などによって工期が延びるため。完成後、建材から発生する物質が収蔵品に影響しないか調べる「枯らし」期間に半年から1年程度かかる予定。市側は、集客が期待される八戸三社大祭など夏祭りシーズンには間に合わせたいとしている。</p>

(6)	<p>八戸圏域版DMO 菊と鶴をデザインしたロゴマーク決定</p> <p>八戸市と近隣7町村による八戸圏域版DMO（観光ビジネス活動体）「VISIT（ビジット）はちのへ」は11月26日、八戸地域の名産品の菊の花びらや鶴を題材としたロゴマークを発表した。8市町村（八戸、三戸、五戸、田子、南部、階上、新郷、おいらせ）で暮らす人々の活気やエネルギーの広がりを菊の花びら8枚で表したほか、南部藩の家紋「向鶴」を地域のシンボルとして表現した。日本語のブランドイメージは、8市町村が持つ多様な魅力を一言で表した「まるで、ワンダーランド」、英語版は「Japan's Northern Frontier」に決定。来春の運営開始を見据え、開発した物産品や旅行商品などを通して国内外に広く情報発信していく。</p>
(7)	<p>県が八戸などで「ウォームシェア」～自宅の暖房消して暖かいお店に行こう～</p> <p>青森県は12月1日から、八戸市など県内5カ所の中心街、商店街を舞台に、自宅の暖房を消して暖かい施設や店舗に集まる「ウォームシェア」の普及に初めて取り組む。県内で2015年度に排出された温室効果ガスは1万5545トンで、部門別ではこのうち24%が「家庭部門」。県は2030年度までに約3割（13年度比）減らす目標を掲げており、達成には家庭の協力が必要となる。参加店舗を利用してスタンプを集めると抽選で景品が当たるなど、楽しみながら家庭での節電やエネルギー使用量の削減につなげてもらう狙い。関係者にはにぎわい創出にも期待を込める。</p>
(8)	<p>八戸市と八食センター「地域活性化包括連携協定」を締結</p> <p>八戸市と協同組合八食センターは11月29日、一層の地域振興や市民サービスの向上を目的とした「地域活性化包括連携協定」を締結した。協定は八食センターが提案して実現した。大枠の連携事項は▽観光による地域活性化や誘客促進▽文化・スポーツの振興▽食育、健康増進▽子育て、高齢者支援など8項目。来年4月の運営開始を目指す八戸圏域版DMO「VISIT（ビジット）はちのへ」との連携も推進する方針である。</p>

【産業】

記事	概要
(9)	<p>ユートリーに新レストラン「駅前ダイニング櫛（いちい）」オープン</p> <p>八戸駅に隣接した八戸地域地場産業振興センター（ユートリー）2階に、11月1日、レストラン「駅前ダイニング櫛（いちい）」がオープンした。青森県南地方を中心とした県産食材を多く使用し、地産地消するのが特徴。ユートリーのレストランは別の市内企業が運営していたが、10月中旬で営業を終了。三八五フーズが新たなテナントとして入居し、店舗をリニューアルした。新幹線利用の観光客がメイン客層となるため、八戸せんべい汁やいちご煮、ヒラメ漬け丼などの郷土料理を豊富に提供。ビジネス客や地元客の来店も見込み、定番メニューも取りそろえた。営業時間は午前11時～午後7時。</p>
(10)	<p>ユートリー新商品人気コンテスト「Aomori恋恋」（小泉製菓）が1位</p> <p>八戸地域地場産業振興センター（ユートリー）は11月22日、市民らを選ぶ2018年度ユートリー新商品人気コンテストの結果を発表した。1位には青森県産のリンゴを使用した、イチゴ味のしっとりとしたチーズケーキ「Aomori恋恋」（八戸市、小泉製菓）が輝いた。2位は、花椒（ホワジャオ）を使用し、うま味と辛味のあるごまみそで八戸産イワシを煮込んだ「麻辣ごま味噌いわし」（ヤイチ、同市）が受賞。3位は、サバの脂質を酸化させない乾燥製法で加工した珍味「黄金さばトバ」（マルカネ、同市）がランクインした。</p>

(11)	<p>“待望 サバ大漁” 今季一番の4600トン</p> <p>三陸沖で操業中の巻き網船団は11月27日、岩手ー宮城県沖でサバおよそ1万2千トンを漁獲し、そのうち約4600トンが八戸港に運搬された。八戸では昨年1年間の水揚げ数量の1割超に相当する今季一番の大漁。サイズは締めさばの原料となる400グラム超の割合が3割ほどと高く、加工業者は「待ちに待った大漁。サイズも大きくなった」と喜んだ。“サバ缶”ブームで需要が伸びる缶詰向けが5割ほどで、原料不足の解消につながると期待される。</p>
(12)	<p>青森ー台北チャーター便 来夏から定期便に</p> <p>青森ー台湾・台北を結ぶチャーター便を運航するエバー航空（台湾）は11月28日、来年第3四半期（7～9月）から同路線の定期便化を予定していると発表した。青森空港の国際定期便は韓国・ソウル線と中国・天津線が運航中で、台北線が加わることで利便性向上と誘客力強化が期待される。台北線の定期便化について三村申吾知事は「定期便が実現すれば、交流はもとより県内経済にも大きな効果が期待される」とコメントを発表した。</p>
(13)	<p>「八苦連携」民間に波及 青い森信金と苦小牧信金が交流協定締結へ</p> <p>青い森信用金庫は11月28日、北海道苦小牧市に本店を置く苦小牧信用金庫と交流連携に関する協定を結ぶと発表した。締結は12月14日付で、苦小牧信用金庫本店で調印式が行われる。連携内容は、職員間交流を通じた業務の効率化や、それぞれの顧客で構成する親睦会会員による両市の観光など。八戸、苦小牧両市の連携を巡っては、今年7月、両市がフェリーを活用した交流人口の拡大に向けて協定を締結しており、民間連携は今回が初めて。</p>

【地域】

記事	概要
(14)	<p>蕪嶋神社 工事順調 進捗8割 ～地域の宝 完成迫る～</p> <p>八戸市鮫町の蕪嶋神社の社殿を焼失した火災から11月5日で丸3年がたつ。蕪島の頂上では着々と再建工事が進み、現在の進捗状況は約8割に達している。新社殿は来年2月に完成する見込みで、順調に進めば、外構や参道の階段を含めた全体工事は来年12月ごろに終了。現在立ち入りできない蕪島は、2020年3月に一般開放する予定。再建には地元や全国から約2億円の寄付が寄せられ、約5億円の総工費に充てられる。周辺には物産販売施設や遊歩道も整備され、消失以前を上回る集客も期待されている。</p>
(15)	<p>大上木材工業（八戸）の「コロシート」 映画「日日是好日」に使用</p> <p>木材加工の老舗「大上木材工業」（八戸市）が製造、販売する屋根の下ぶき材「コロシート」が、全国公開中の映画「日日是好日」の撮影セットに使用されている。コロシートは、薄くスライスした木材を縫合してロール状に加工した製品で、屋根の野地板の上に貼り付けて使う。人気女優の黒木華さんが主演を務め、今年9月に亡くなった女優の樹木希林さんが生前に出演した注目の映画。メイン舞台となる茶道教室の建物の屋根に使われた。大上達司社長は「青森県産の木材を使ったオリジナル製品が映画に登場し、非常に感慨深い」と話している。</p>
(16)	<p>八高専とタイの中高一貫校 国際競争力強化へ協定</p> <p>八戸高専は11月20日、タイの中高一貫校「プリンセスチュラポーン・サイエンスハイスクール（PCSHS）チョンブリ校」と学術協定を結んだ。PCSHSはタイ国内に12校あり、理工学教育では同国内で最高レベルを誇る。ほとんどが医師や科学者を目指して大学に進学するといひ、2016年には国立高専機構（東京）との間で包括的な学術交流協定を締結している。2019年度以降、同校がPCSHSの学生を留学生として受け入れるなど人的交流を活発化させ、理工学研究の国際競争力強化を図る。</p>

(17)	<p>2017年がん75歳未満死亡率 青森県が14年連続最下位</p> <p>がんによる青森県の75歳未満年齢調整死亡率（人口10万人当たり）は、2017年が88.9人（前年比4.4人減）と14年連続で全国ワーストだったことが分かった。部位別のがん死亡率で最下位だったのは、「大腸」が13.5人で12年連続、「結腸」が8.2人で4年連続、「胆のうおよび他の胆道」が3.6人と2年連続。ただ全国平均との差は縮まっていることから、県は「がん健診の受診率向上など、施策の効果が少しずつ現れている」とし、最下位脱出を目指して対策を加速させる方針である。</p>
------	---

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	<p>ヒップホップダンス国際大会 沢上りんかさん（八戸市）世界チャンピオンに</p> <p>八戸市の沢上りんかさん(19)が10月3、4の両日、中国・南京市で開かれたヒップホップダンス国際大会「UP TEMPO Vol.10 HIPHOPサイド」で、念願の世界チャンピオンに輝いた。父・光裕さんの影響で、4歳でダンスを始めた沢上さん。“小学生ダンサー”として注目され、テレビCMに出演した経験もある。高校進学後は、ダンスの本場・米国などに短期留学。現在、光裕さんが営む八戸市のダンススタジオで講師も務めながら、地元に残り、世界で活躍できるダンサーを目指している。</p>
(19)	<p>市川海老蔵さん「古典への誘い」 八戸公演開催</p> <p>歌舞伎役者の市川海老蔵さんが企画する公演「古典への誘い」が11月15日、八戸市公会堂で開かれた。初代市川團十郎から受け継がれてきた「歌舞伎十八番」の一つ「蛇柳（じゃやなぎ）」が上演され、海老蔵さんは迫力の「にらみ」や優美な演技で、詰め掛けた来場者を独自の世界観へと引き込んだ。蛇柳は、災いを招く大蛇が弘法大師の不思議な力によって姿を変えたと伝わる柳の木が題材で、海老蔵さんは歌舞伎特有の表現「押戻」を用いながら3役を熱演。妖艶な舞踊に加え、荒々しく「見得」を切る姿で、梨園を代表するトップスターの姿を一目見ようと集まった多くの市民らを魅了した。</p>
(20)	<p>ヴァンラーレ八戸 J3参入！ 青森県初 新たな挑戦へ</p> <p>日本フットボールリーグ（JFL）のヴァンラーレ八戸が11月18日、ダイハツスタジアムで今季最終戦に臨み、テゲバジャーロ宮崎に3-1で勝利した。会場には今季最多の4075人の観客が来場し、「年間4位以内」の成績に加え、J3参入に必要な条件であるホーム戦の平均観客数をクリアした。11月20日、都内で開かれた日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）の理事会で、ヴァンラーレ八戸の来季のJ3昇格が満場一致で承認された。ヴァンラーレのJ参入は、全国で55チーム目。青森県初のJクラブチームとして、新たなステージに挑戦する。</p>
(21)	<p>八戸三社大祭の山車 現行通りエンジン使用</p> <p>八戸三社大祭を含む全国の山車祭りに関し、国土交通省と警察庁が山車運行に関する新基準を取りまとめた。新基準では「一般交通に対する安全措置が講じられた祭り会場での山車は、道路運送車両に該当せず、（警察の）道路使用許可で対応可能」とした。三社大祭の運行を巡っては、ルールが明文化されていなかったため、警察から指摘を受けるなど度々、議論されてきた経緯がある。これを受け、はちのへ山車振興会は、来年の祭りから新たな安全対策を講じた上で、エンジンの補助使用を継続する方針である。</p>